

「旧川復元事業実施計画」の概要
 (「茅沼地区旧川復元事業実施計画」平成18年8月、「ヌマオロ地区旧川復元実施計画」平成29年7月)

茅沼地区、ヌマオロ地区では、直線化した河道を埋め戻して旧川を復元することで、以下の効果を期待します。

- ①湿原河川本来の魚類などの生息環境の復元
- ②湿原植生の再生
- ③湿原景観の復元
- ④湿原中心部への土砂流出などの負荷軽減



くわしくはこちら 「茅沼地区旧川復元事業実施計画」



くわしくはこちら 「ヌマオロ地区旧川復元事業実施計画」

「釧路川支川魚類生息環境の再生実施計画」の概要 (令和2年10月)

サケ科魚類の遡上環境改善に向けて、釧路川水系の支川で魚道整備を実施しています。魚類の遡上・生息環境を復元することで、それらを餌とするシマフクロウやタンチョウなどの採餌環境や湿原生態系の復元を目指します。



くわしくはこちら 「釧路川支川魚類生息環境の再生実施計画」

令和6年2月22日(木)「第27回 河川環境再生小委員会」が開催されました。

開催概要

小委員会には、33名(個人18名、10団体、オブザーバー2団体、関係行政機関3機関)が出席しました。また、第11期後期の新規委員として個人3名の登録があり、小委員会全体では69名が所属しています。

今回は、湿原再生小委員会との合同開催を実施し、このうち河川環境再生小委員会では「ヌマオロ地区旧川復元事業」、「雪裡川自然再生に向けた課題の整理」、「茅沼技術資料に関する報告」について釧路開発建設部より報告がありました。さらに、「釧路川支川魚類生息環境の再生事業」について釧路自然保護協会より報告があり、それぞれに対する意見交換が行われました。

なお、合同検討として、「釧路湿原自然再生での生物と環境の関係」というテーマで、両小委員会の共通テーマである「場の再生」と「生物の生息状況の変化」に関わるこれまでの取組について事務局より報告がありました。

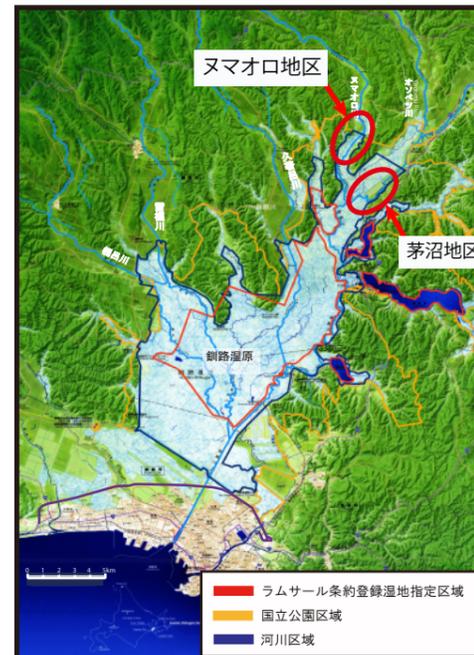
河川環境再生小委員会とは



河川環境再生小委員会は、釧路湿原自然再生協議会の7つある小委員会の一つです。河川環境の保全・再生に関わる施策について検討をしています。

- ・釧路川や釧路川支川の本来の姿である蛇行河道の復元
- ・湿原への土砂の流入を軽減し、湿原植生の再生を目指す氾濫原の回復
- ・魚類が河川を下流から上流まで移動できる連続性の確保

河川環境再生の取り組み



取り組み箇所位置図

旧川復元事業



・旧川復元事業では直線化された河川を元の蛇行河川に復元することで、氾濫頻度を増やし、湿原植生の回復や湿原中心部に入る土砂を軽減させます。また、蛇行河川に戻すことで、魚類の生息環境や湿原景観の復元を図ります。

・茅沼地区は平成23年3月に旧川の復元が完了し、令和元年度から2箇所目のヌマオロ地区の旧川復元に向けた工事に着手しています。

釧路川支川魚類生息環境の再生事業

・サケ科魚類の遡上環境改善に向けて釧路自然保護協会が中心となって平成30年から釧路川水系の支川で魚道整備を実施しています。

・令和2年10月に実施計画を策定し、釧路湿原自然再生事業として取り組みを進めています。



落差工への魚道整備を実施

第27回河川環境再生小委員会[出席者名簿 (敬省略、五十音順)]

個人 [18名]

- 折戸 聖 [公益社団法人 北海道栽培漁業振興公社]
- 川尻 洋志 [太平洋総合コンサルタント株式会社 環境科学部]
- 川西 亮太 [北海道教育大学釧路校 准教授]
- 神田 房行 [北方環境研究所 所長 (元北海道大学副学長)]
- 工藤 知美 [特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所]
- 坂井 一浩 [八千代エンジニアリング株式会社北海道営業所]
- 清水 康行 [北海学園大学 工学部 特任教授]
- 新庄 興
- 新庄 久志
- 照井 滋晴 [特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG 代表]
- 根岸 淳二郎 [北海道大学大学院地球環境科学研究院 准教授]
- 野本 和宏 [釧路市立博物館]
- 長谷川 理 [特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所]
- 早川 博 [北見工業大学 工学部社会環境工学科 教授]
- 針生 勤
- 平間 清 [(有)平間ファーム]
- 山田 朋人 [北海道大学大学院工学研究院 教授]
- 渡部 哲史 [京都大学防災研究所]

団体 [10団体]

- 株式会社日野組[日野 彰]
- 釧路国際ウェットランドセンター [佐藤 英樹]
- 釧路自然保護協会[神田 房行]
- 釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 [芳賀 孝朋]
- 釧路市水産用水汚濁防止対策協議会[倉地 宏樹]
- 公益財団法人 北海道環境財団 [安田 智子]
- 標茶西地区農地・水保全隊[佐久間 三男]
- 特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ[井上 雅子]
- 特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村[佐藤 吉人]
- 特定非営利活動法人 トラストサルン釧路[松本 文雄]

オブザーバー [2団体]

- 標茶町農業協同組合[鈴木 重充]
- 釧路丹頂農業協同組合[春日 守]

関係行政機関 [3機関]

- 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [菅野 法之]
- 環境省 釧路自然環境事務所 [柳川 智己、萱島 拓郎]
- 鶴居村 [寺島 圭亮]

～ 委員を募集しています ～

- 毎年10月中旬～11月初旬に釧路湿原自然再生協議会の委員を募集しています。
- どなたでも参加でき、興味のある小委員会に参加いただけます。

資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。

<http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend0000003ppq.html>



ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。電話・FAXにて事務局までご連絡ください。

釧路湿原自然再生協議会
運営事務局

TEL (0154) 23-1353

FAX (0154) 24-6839

1 ヌマオロ地区旧川復元事業について 国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課が取り組みました

◆ 令和5年度の取り組み

1. 工事予定

●令和元年度から旧川復元に向けた工事に着手し、令和5年度は右岸側旧川の掘削工事を予定しています。

2. 希少植物の移植

●工事によって影響を受ける希少植物を保全するため、影響を受けない場所への移植を行っています。

●令和5年度は右岸旧川で確認された希少種のホソバドジョウツナギの移植作業を行いました。次年度以降、定着状況についてモニタリングを行います。



希少植物の移植状況

3. 工事に伴う魚類等の移植

【旧川の魚類等の移植】

●左岸旧川の掘削に伴い、移植作業を行いました。

●捕獲された魚類・底生動物は止水域で生活する種、流水域で生活する種ごとに分類し、それぞれ仮締切上流側の旧川、現河道に放流しました。



魚類の捕獲状況

【直線河道のカワシンジュガイ類の移植】

●ヌマオロ川の直線河道に生息するカワシンジュガイ類の生息分布調査を実施しました。合計735個体を捕獲し、工事の影響を受けない範囲に移植を行いました。

次年度以降、定着状況のモニタリングを行います。



カワシンジュガイの放流状況

このような意見交換が行われました。

●北海道で見られるキタドジョウは本州から導入された外来種ではないかという論文が発表されました。まずは捕獲した個体をドジョウとキタドジョウに分類することを目指してほしいです。

●カワシンジュガイを非常に多く捕獲でき、保全対策を実施できたことは非常に良かったです。来年度以降、モニタリングの実施をお願いします。



委員

2 雪裡地区自然再生に向けた課題の整理 国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課が取り組みました

◆ 令和5年度の取り組み

1. 雪裡地区の課題

●雪裡地区での自然再生の実施に向けた課題について、地元関係者や有識者にヒアリングを実施しました。
●これらの意見をもとに、自然再生計画の具体的な検討を進めていきます。

■動植物について

(釧路市立博物館：加藤委員、野本委員、貞園委員、北海道教育大学釧路校：川西委員)

- ・直線河道は川幅が広くて水深が浅く、魚類が少ないため、旧川を復元して魚類の生息環境を改善する考えに問題ありません。
- ・現状でも雪裡川から旧川に流入しているため、雪裡川から旧川に流入しやすくする掘削が必要か検討する必要があります。
- ・雪裡川は大きな川ではないので、大規模な工事は避けたほうが良いです。

■タンチョウについて

(タンチョウ保護研究グループ：百瀬氏、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ：原田氏、鶴居村教育委員会：音成氏)

- ・旧川復元により魚類の生息数が増え、タンチョウの餌が増えることは良いです。特に冬の餌は動物質に頼る傾向があります。
- ・自然再生を進める上では、地元から応援してもらえるような体制作りが必要です。
- ・冬期の工事では工事期間や工事を行う時間に留意が必要です。

■サケ科魚類について

(北海道立総合研究機構：卜部氏)

- ・サケの生息にとってはプラスになる事業です。
- ・工事時期について、漁業者との調整が必要です。

■キタサンショウウオについて

(NPO法人環境把握推進ネットワーク-PEG：照井委員)

- ・自然再生予定箇所でのキタサンショウウオの在・不在は不明なので、確認のための調査を行った方が良いでしょう。

■鶴居村

- ・隣接地域では、排水路の逆流など営農に支障があり、排水不良の改善が切実な要望です。
- ・雪裡川の河床上昇対策や排水路機能の回復が図られることを期待しています。
- ・音羽橋下流のタンチョウのねぐらは、鶴居村の大きな観光資源です。インバウンド需要も含め、宿泊や観光ガイド業も行われています。タンチョウの姿を見たり写真を撮影しに多くの観光客が訪れるため、ねぐら位置が移動すると観光面での影響が大きく、心配です。

■下雪裡地区における農業振興懇談会

- ・雪裡川の水位低下につながる対策も検討してほしい。
- ・大雨時には逆流した水が農地に氾濫してしまう。
- ・2号幹線明渠排水の排水機能が改善されると良い。
- ・旧雪裡川へより多く流せることで、排水性が改善できると良い。
- ・農地のかさ上げのための土砂提供など、事業連携がありがたい。

このような意見交換が行われました。

●雪裡川はサケが遡上する河川であり、工事の際には留意してほしいです。産卵期だけでなく、卵が河床の中にある冬期間に細粒分が入ると、卵が酸欠で死ぬ可能性があるため、対策を検討してほしいです。

●鶴居村から「音羽橋下流のタンチョウのねぐらが大きな観光資源であり、影響が心配」という意見が挙がっているが、再生事業による影響はないのか。

また、雪裡川は河床が上昇して排水不良となっている。農業者からは排水不良を改善してほしいという声も挙がっているが、どう考えているのか。

●旧川を復元するという事は再び氾濫原に戻すことであり、現況の農地に影響が出かねない。現実的ではなく、地元としては考えられない。

●茅沼の旧川復元事業の際には、シミュレーション結果に反して出水時に水位が上昇し、牧草ロールが流出する等の損害を受けた。

●南標茶町は河床が上昇したせいで農地の暗渠パイプが常に埋まった状態となっている。農業者のことも十分に考えて事業を行ってほしい。事業終了後も意識したモニタリングについても考えてほしい。

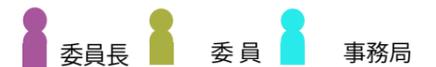
●雪裡川の河床を変化させないように、2号幹線明渠排水路より上流側は土砂調整地の設置を検討し、河床は現行から変化させない形で考えています。下流側は、水位上昇の影響がない範囲で旧川の復元を行いたいと考えています。

タンチョウの利用面を考慮して河床には手をつけませんが、農業者側に対しては、治水事業の中で発生した土砂を活用した農地かさ上げなどの事業連携を協議しています。

●旧川復元による影響については地元の農業者が最も心配しているため、雪裡川の自然再生では、これまで茅沼地区旧川復元で行ってきた経験や経過、地元意見も含めて、水位が上昇しない範囲での検討を慎重に進めていきたいと考えています。

●雪裡川は陸・川・湿原等の環境だけでなく、農業・漁業など様々な要素が絡んでおり複雑です。

事務局から原案が提示されていますが、これで決まりということではないため、色んな意見を出してもらい、今後もこういった議論を進めながら考えていければと思います。



委員長

委員

事務局

3 釧路川支川魚類生息環境の再生事業について

釧路自然保護協会が取り組みました

◆ 令和5年度の取り組み

- 2022年度秋から約50年ぶりに上流域にサクラマスが大量遡上して産卵し、上流域では約14~30倍、河川全体では4~8倍に増加しました。2025年の秋には回帰した親魚の産卵数が増加すると予想しています。
- イトウは2018年の魚道設置により上流で産卵するようになりましたが、過去2年は減少傾向にあり、個体数が少なく危機的な状況です。
- イトウの個体数回復に向けて、標津サーモン科学館と協力して人工飼育による稚魚の育成も進めています。



魚道整備後（2022年現在の状況）

標津サーモン科学館で稚魚育成

このような意見交換が行われました。

●ふ化事業で養殖しているイトウは釧路の地域個体群なのではないでしょうか。

●標津サーモン科学館で育成している個体は釧路川支川で採集した卵から育成しており、遺伝的攪乱はありません。

●魚道の耐久年数は何年程度でしょうか。木材であれば10年程度で朽ちてしまうのではないかと思います。

●短期的な応急処置として木材を使い、市民ができるような方法で魚道を作成しています。今後も補修を行いつつ、行政には恒久的な耐久性のあるもので整備してほしいと思っています。

●千歳川などではパイプ管と幌布をつかった魚道を作成しており、出水や流木で布は壊れますが、すぐに交換できる仕様となっています。気候変動で大雨が降る頻度が増えることを想定したつくりですので、参考になると思います。



委員

釧路自然保護協会